物流ニッポン LOGISTICS NIPPON
2016年(平成28年) 3月7日(月曜日) 11

OCHIS■両輪会

中高年活用で議論

健康管理「重要性高まる」

【大阪】ヘルスケアネットワーク（OCHIS、武田裕理事長）は2月25日、安全と健康を推進する協議会（両輪会、作本貞子代表）を開いた。1月に長野県軽井沢町で起きたスキーツアーバス転落事故で、改めて浮き彫りとなったドライバーの高齢化問題を踏まえ、安全運行と健康管理の側面から「人材不足を乗り切るための中高年の活用」をテーマに議論を交わした。

作本代表は今年に入って発生したバス事故として、1月22日に仙台市で回送中の市営バスが田んぼに突っ込んだ事例を取り上げ、「ドライバーは睡眠時無呼吸症候群（SAS）の治療を受ける直前だったことが分かっている。37歳と高齢ではないものの、年齢を重ねるほど健康管理の重要性が高まる。3年前も同様のテーマで両輪会を行ったが、その時と比べて高齢化問題は更に深刻になっている」と説明。自身が作成に携わった全ト協の「改訂版 トラック運送事業者のための健康起因事故防止マニュアル」のポイントや効果的な活用法も紹介した。

また、OCHISの黒田悦子保健師も、中高年が発症しやすい病気やその予防法などを解説した。

引き続き行われたグループディスカッションでは、各社の高齢化対策や人手不足に対する取り組みについて意見交換。「自分自身が高齢者と気付いていない人が多く、理解してもらった上で注意を促すことが必要」「（定年を過ぎた高齢者の）再雇用の物差しとなるものがあればいいと思う」といった声が上がった。

（上田理子）

「高齢化問題は更に深刻になっている」と作本代表